

## 筋ケイレンに対する対応について

●JTA テニスルールブック 2010 P66～67 より引用 (赤文字は県ローカル・ルール)  
筋ケイレンの場合、プレーヤーはエンド交代時またはセットブレイクの時間内に限り処置を受ける(セルフトリートメントする)ことができる。筋ケイレンの処置でMTOは与えられない。

プレーヤーが深刻な筋ケイレンによってプレーが全くできないとトレーナーまたはドクター(レフェリー、SCU、またはロービングアンパイア)が判断した場合、次のエンド交代時またはセットブレイクまでポイントおよびゲームを失い、直ちに定められた時間内で筋ケイレンの診察並びに処置をうける(セルフトリートメントする)こととなる。筋ケイレンの場合に限り、エンド交代時またはセットブレイクの限られた時間内に1試合に最大2回までのメディカルトリートメントを受ける(セルフトリートメントする)ことができる。その2回は連続するエンド交代時でなくてもよい。

### ●具体例

**その1** 6ゲーム、または、8ゲームマッチを想定

2-1で勝っていて第4ゲーム中にケイレンを起こしトリートメントを申し出た。  
→次のエンドブレイクは第5ゲーム終了時点なので、第4、第5の2ゲームを失わない、ゲームカウントは2-3となる。

→トリートメントは、エンドブレイク中の90秒間許される。

→90秒後試合続行(必要なら後でもう1回トリートメントを要求できる)

又は、続けて2回目(さらに90秒)を取ることもできるが、さらに2ゲーム失うことになり、ゲームカウントは2-5となる。(この試合ではもう要求できない)

**その2** ザ・ベスト・オブ3セットマッチを想定

・第1セット4-5で負けていて第10ゲーム中にケイレンを起こしトリートメントを申し出た場合。

→この第10ゲームを失えば4-6で第1セットが終了し、セットブレイクとなるので120秒間のトリートメントが許される。

→120秒後試合続行(必要なら後でもう1回トリートメントを要求できる)

又は、続けて2回目(さらに90秒)を取ることもできるが、第2セット第1ゲーム後にはエンドブレイクは無いので、3ゲーム失うことになり、ゲームカウントは第2セット0-3となる。(この試合ではもう要求できない)

◎規定時間終了後の遅延は、コードバイオレーション(アン・リーズナブル・ディレイ)が適応されるので要注意! 以上

●具体例を除く、本文章の一部はJTA テニスルールブック2010をJTAの許可を得てコピーしたものです。本文章を他の目的でコピーまたは複製をしないようにお願いします。